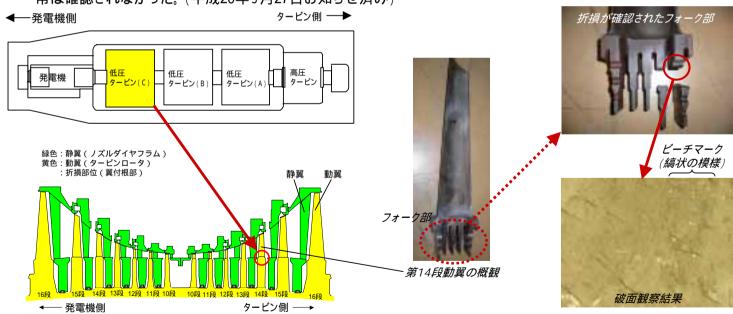
## 7号機 低圧タービン第14段 動翼フォーク部の点検状況について (続報)

平成20年4月3日 東京電力株式会社 柏崎刈羽原子力発電所

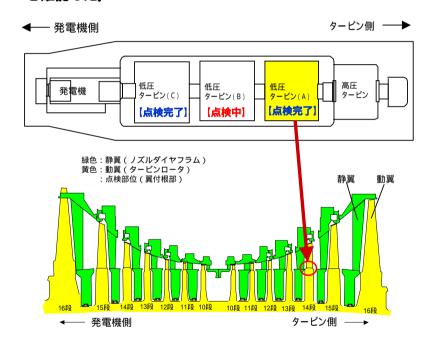
## 低圧タービン(C)第14段動翼フォーク部の点検結果(既報)

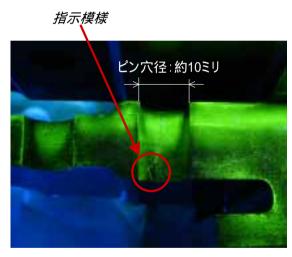
- ・低圧タービン(C)第14段(タービン側)の動翼4枚(動翼は4枚1組で固定されている)を取り外し点検したところ、動翼1枚のフォーク部が一部折損していることを確認した。低圧タービン(C)第14段(タービン側)の動翼全152枚のうち、当該部4枚を除く残りの148枚を抜き取り、外観目視点検を実施した結果、フォーク部に折損がないことを確認した。破面について観察した結果、表面には、金属疲労を原因とする場合に特徴的に見られるビーチマーク(縞状の模様)を確認した。低圧タービン(C)第14段(タービン側)の折損のあった動翼を除く残り151枚動翼のフォーク部について非破壊検査を実施したところ、17枚に指示模様を確認した。(平成20年3月4日、13日、19日お知らせ済み)
- ・低圧タービン(C)第14段(発電機側)の動翼152枚について外観目視点検および非破壊検査を実施した結果、異常は確認されなかった。(平成20年3月27日お知らせ済み)



## 低圧タービン(A)第14段動翼フォーク部の点検結果

- ·7号機 低圧ターピン(A)第14段(ターピン側、発電機側)の動翼各152枚、計304枚を取り外し、動翼のフォーク部について外観目視点検を実施した結果、折損は確認されなかった。
- ・計304枚動翼のフォーク部について非破壊検査\*を実施した結果、ターピン側の動翼1枚(1箇所)に指示模様を確認した。



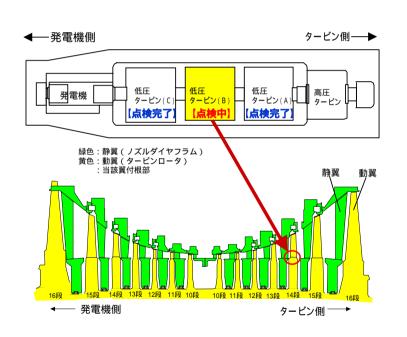


磁粉探傷検査による指示模様 (第14段(タービン側)動翼(128枚目)フォーク部)

<sup>\*</sup> 非破壊検査とは、材料表面の微小な傷などを確認する検査手法。今回の点検では「磁粉探傷検査」を実施。

## 低圧ターピン(B)第14段(ターピン側)動翼フォーク部の点検状況(速報)

- ·7号機 低圧タービン(B)第14段(タービン側)の動翼152枚を取り外し、動翼のフォーク部について外観目視点検を実施した結果、1枚のフォーク部の一部に折損を確認した。
- ·引き続き、低圧ターピン(B)第14段の動翼フォーク部について外観目視点検および非破壊検査を実施します。





第14段(タービン側)動翼フォーク部 損傷箇所(80枚目)